

# 発見！東北グルメ

「GleenGables」のお店は古代米や牛舌を売りにしている、少し高級なお店です。お店の売りである古代米は、赤米黒米などタンニンやクロロフィルの豊富な健康食材で、店のメニューの数々も砂糖や余計な調味料、食品添加物は使つていません。シンプルにまとめられた料理は、違ひの分かる大人の味。また店長こだわりの牛タンもそこらのものとは一味ちがう出来となつています。国府多賀城駅から徒歩3分。ぜひ足をお運びください。



No. Gleengables—グリーンゲイブル (多賀城市)

ルな釣り竿は女性  
ウケも上々。「写  
真うつりの良い釣  
り竿で、初心者は  
満足」との声まで  
飛び出し、皆さん  
大笑いです。



いたときました。こんな経験、普段はなかなかできないものですね。高橋さんの養殖場では、来年収穫するためには管理中の牡蠣を見学しました。ホタテ養殖に使うロープの準備と片付けもお手伝いしました。ホタテは「耳」と呼ばれる部分に穴

未知の世界に、作業中は参加者から様々な質問が飛び出します。高橋さんが丁寧に答えてくれるので、2日間のプロジェクトを通して参加者からの信頼はとても厚いものとなります。「遠くてもまた来たいと思うのは、他の

場所ではなくここに  
来るのは、やはり会  
いたい『人』がいる  
から」と、皆さん曰  
を揃えます。



# 漁師が教える釣り体験

漁業ブルーツーリズム開発応援プロジェクト#2  
主催：漁業

(南三陸・泊浜)

10月13・14日、漁業＆ブルーツリズム開発応援プロジェクトの第2回を開催しました。今回は東京、千葉、栃木から、8名が参加しました。地元漁師が取り組む漁業レジャーを体験し、事業立ち上げを応援します。



で初心者にも釣りを楽しんでもらうための企画です。漁師がインストラクターとして自らの漁船を用い、皆さんを釣りへ連れ出してくれます。



1000

# 復興応援団だより

2012.11.1 / N08  
発行元：  
一般社団法人  
復興応援団  
広報チーム  
022-393-9331

## 復興応援団とは

私たち一般社団法人復興応援団は、地元の方々が主導して地域活動のとどめを設立し、東北地方の各市町村を増・増に活性化するため、地域の活性化と復興が進むことを目標としています。このアソシエーションは、地元の資源を活用して、地域社会の活性化と復興を実現するための組織です。

「ボランティア」を実施してあります。全国から参加者のボランティアを募り、地域再生の取り組みに取り組む地元の方々の手伝いをして、地域の魅力に触れてもらうことで、『地域のファン』を生み出し、長期間の復興を支えることをつくります。

「支え合賀城市でいづれの事務所は、業興は営當ちがちのまな公には、見指ニなのがおとで手ワゆなしテつ皆るづ住宅今後くねツで、伝しるし、いたさよくのうりの後りツで、イクや仮設の自んうりの後りツで、しづか設設形治がなに生の復活も、中コ成住のくくなて」

# ここが見どころ観光資源

⑤多賀城政厅跡  
今から約千三百年前、東北地方経営の拠点のために築かれ、「遠の朝廷（とおのみかど）」として歴史を刻む陸奥国府・多賀城。その陸奥国府の中で中心的な機能を与えてきた多賀城政府は、奈良県の平城京跡、福岡県の大宰府跡と共に日本の「三大史跡」の一つです。当時、多賀城政府では重要な儀式や政務が行われていたと考えられています。駅から徒歩10分。みなさんも歴史の情趣を味わいに一度足を運んでみてはいかがでしょうか。



10月23日、多賀城市市民活動サポートセンターで、地元の支援協力者を集めました。復興応援団が多賀城で取り組

む、将来のまちづくりを後押しする、支え合いの仕組みづくりを進めるための会議です。

医療・福祉・芸術・飲食といった様々な分野で活動する地元の方々が参加しました。復興応援団と共に、仮設住宅で住民主体のイベントやワークショップを開催した方、昨年から継続して仮設住宅でサロモンを開催している方、地域活性のために、駅

志津川湾の美しい海を臨む高台に、「絆」と「感謝」の文字を壁に掲げた新しい民宿があります。南三陸町袖浜の地で「下道荘」は、震災を乗り越え、今年2月17日に復活しました。「うちは『料理が命』の宿。毎朝目の前の海で採れる新鮮な海の幸をお客さんに提供します」33年前、漁師として働きながら民宿を立ち上げた菅原さん。妻、息子夫婦と共に温かい

同じだとと思うが、なかなか無い。今後メンバー同士のつながりに発展させて行きたい」という声が上りました。次回は11月上旬に集まり、さらに具体的に、仕組みづくりについて話し合う予定です。

参加者は「支援に関わる活動をしている人の思いは皆同じだと思えるが、なかなか無い。今後メンバー同士のつながりに発展させて行きたい」という声が上がりました。「誰かできれば復興は進まない。人にどう見られても、目標に向かってやるべきな」と思いました。それを見た周りの人も勇気をもらつて、「再建が」始まつてくれればという想いでした

建物が解体される前に、食器や道具を家族総出で回収し、瓦約3千枚を手作業で降ろしました。「使えるものは全て再利用する」必死の思いでした。海を見渡す高台に再建して良い場所があることを地域の皆の役に立つてもらいます。集まる遠くから会いに来る家族の宿泊先となり、地域の会合や寄合の場所になつたりもします。集まるところが、宿泊客でいっぱいになり、地元の約2倍の規模に民宿を増築する計画です。

来年夏には現在の約2倍の規模に民宿

【南三陸】  
○11月24日(土)~25日  
(日)農業で被災者雇用応援プロジェクト#13

○12月1日(土)~2日  
(日)漁業&ブルーツリズム開発応援プロジェクト#5

参加申し込みはホームページにて。

【南三陸】  
○11月24日(土)~25日  
(日)農業で被災者雇用応援プロジェクト#13

○12月1日(土)~2日  
(日)漁業&ブルーツリズム開発応援プロジェクト#5

【南三陸】  
○11月24日(土)~25日  
(日)農業で被災者雇用応援プロジェクト#13

&lt;p